

学生・職業人・市民の知的交流 学生による語り合いのシンポジオン

目次

経緯、問題の所在、目的と方法、
実施実績、様相、扱ったテーマの分析、
プレゼン・トークの様相、効果、まとめ

2017年7月9日 シンポジオン世話人(野田真士,富樫豊)



◆目的

- 若者を中心にした知的交流を楽しむ
→ 対等で自由な環境 (教育の場として限定せず)
→ 語り合う、自由に、とことん、多くの方と
→ 枠を超え、専門を超え、(多様的に)
→ 皆さんとつながる

対象 : 学生、職業人、市民
教育的解釈: 志教育、人間性教育

■学生による語り合いのシンポジオン 46チーム,401人

2002年からの「議の集い」を基に2007年から学生向けに衣替え

- 2007年 福岡大学** 参加チーム6、参加者60人(うち職業人10人程)
「学内外における学生主体の建築活動」
- 2008年、近畿大学(広島)** 参加チーム5、参加者60(職業人10程)
「若者の活力を明日につなげる」
- 2009年、東北文化学園大学** 参加チーム5、参加者35(職業人11)
「地域の諸問題を対象とした設計・制作活動」、
- 2010年、富山大学** 参加チーム6、参加者60(職業人10)
「地域の想いをかたちに」、
- 2011年、早稲田大学** 参加チーム4、参加者25(職業人10)
「私たちにできることは」、
- 2012年、名古屋大学** 参加チーム6、参加者50(職業人9)
「建築の原点に戻る」、

- 2013年、北海道大学** 参加チーム5、参加者35(職業人12)
「学内外における学生主体の建築活動」
- 2014年 東海大学(平塚)** 参加チーム3、参加者12人程(職業人2人)
「学内外における学生主体の建築活動」
- 2015年、神戸大学** 参加チーム4、参加者24(職業人10)
「学内外における学生主体の建築活動」
- 2016年、福岡大学** 参加チーム5、参加者10(職業人2)
「学内外における学生主体の建築活動」、
- 2017年、広島大学** 参加チーム5、参加者30(職業人10)
「学内外における学生主体の建築活動」、
- 2018年、東北大学** 参加チーム*、参加者** (職業人**)
「 」、
- 2019年、金沢工業大学** 参加チーム*、参加者** (職業人*)
「 」、

■ テーマ

コミュニティ・まちづくり	中津川街並み景観、八幡地区、佐世保市町再生 明かりプロジェクト
震災	中越柏崎復興計画、大槌復興、笑顔応援、
こども	ダガネランド
福祉	アイデア支援
植生・農業	街中農園、小学校ビオトープ、雑木林、里山と街のポケットパーク
作品設計	身体経験と図書館、都市の小学校、街づくりカフェ コミュニティマシソン、設計コンペ、ライフスタイル、建築WS
制作	椅子、吹流し、足湯船、つくること・かんがえること
構造	モルタル調査、
実物製作	構内いこいの場、小規模講義等建設、雁木まちづくり
都市政策	北九州市土木・造園・建築総合デザイン 都市の水辺空間、シーサドタウン外部空間

■ 説得に当たり、疑問に答える

- ・研究発表や**デザイン発表**とどこがちがうのか
- ・研究室単位の発表会の様相だが、意味ありか
- ・学内の課題の**講評会**とどこがちがうのか。
- ・テーマはいつも幅広いが、通常シンプではテーマを絞るが
- ・テーマが広範囲なら、議論しにくいのでは
- ・交流なら他団体にもある。学会がやらなくても
- ・なぜ、**語り合い**となっているのか。討議では
- ・「学生による」ではなく「学生のための」では
- ・「シャレット」とどこがちがうのか
- ・学生に**知的交流が必要か**

■ 感想 学生側

自から共へ、共感、共有、驚嘆、
多様性と自由により

「ためになった」ではなく「面白かった」
面白さとは、自の紹介、他の理解
世代間、多専門、市民 → 交流

楽しさの数々

実務者との対等な交流。語り合う
他大学の様子がわかった。
専門の枠を超えて語り合う 例、構造を知った、計画を知った
フランクな交流として皆で楽しく。
種々の分野、視点の意見で語り合い

率直な感想から。

聞いてもらったことに自信。気楽さに安堵して楽しむ。
他分野のことを知って学べた。
先生に背中を押してもらっていい経験をした

■ 感想 教員側

自由闊達で多様な知的交流の楽しさに価値有

しぼりのないところに、若者との対話が可能を実感→平等・対等・自由
学園の枠を超えての交流 市民協働といえども学校の枠の中
自立・自主性の育成として、いいチャンスと場
国際化や異分野交流といっているがパーソナリティ確立なしには無理。

辛口批評

学園紛争頃の熱い議論を期待したが
研究室のテーマで動いている場合が多いが

批評

教室以外のフィールドで刺激があった
建築の社会性に気づいてくれた
議論というものの楽しさを知ったようだ
学生同士の連帯や仲間意識が垣間見られた
学生は元気がないというが、大人はそれに気付いていないだけ